

■児童・生徒の学力の状況

- どの学年も落ち着いて授業に参加し、意欲的に個々の学習に取り組んでいる。
- 学力としては国語・英語がほぼ全国平均と並んでいる。数学に関しては下位の分布が多く、全国平均をやや下回っている。特に文章問題や図形等の思考、判断、表現力の記述式が弱く、苦手意識が強く、下位者が多い現状である。
- タブレットPCの学習活動も多様になり、授業におけるアプリケーションやツール等の活用スキルが充実しつつある。ミライシード等を活用して多くの問題に取り組む生徒が増えている。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題  
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 授業規律の確立を常に意識し、落ち着いた授業展開を継続すること。
- 学年相応の基礎的・基本的内容の定着を図るために、きめ細かな個別支援の継続すること。
- 思考力・判断力・表現力の向上を目指すための授業展開を工夫するとともに、読み解く力を育成すること。
- 授業スタンダードに基づき主体的、対話的で深い学びを実現する授業展開をすること。

■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- 育成すべき資質・能力を明確に捉え、「学びに向かう力・人間性等の涵養」及び「板橋区授業スタンダード」の視点から生徒の意欲醸成を実感する授業を実践する。
- 学びの成果を実感させ、学習意欲向上を図るために、生徒が学習の見通しを立て、自らの言葉で学習の内容と学習を通しての気付き等について自らの言葉で振り返る活動の充実を図る。
- 「文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決したり、表現したり、要約する」活動を計画的に入れ、読み解く力を育成する。
- タブレットPC等の活用による情報活用能力・プレゼン能力を高め、社会に対応できる人間を育成する。
- 読み解く力を支える基礎的読解力の6分野を意識した授業を展開するとともに、漢字や語句を調べる活動・内容をできるだけ短い文章でまとめる活動を重視し、語彙力と要約力の向上を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
板橋区授業スタンダードの徹底	読み解く力の育成	総合的な学習の時間との連携
○各教科において、適切な課題を設定し文章、図表等から必要な情報を取り出す→比較・関連付けて読み取る→理解・解釈・推論・表現・要約する活動を行う。	○授業におけるINPUT→THINK→OUTPUTの設定を通して、生徒が自分の考えをもつ場面、他の人の考えを聞いたり活動を見たり、自分の考えと比較したり組み合わせたりして、よりよい考えを創り出す場面を設定し、対話を通じた協働的な学習を促す。	○カリキュラムに沿った領域間の学習のもとに、探究的な学習等の具体的なめあてを提示し生徒の良い点や進捗状況などを適正かつ公平に評価し、必要に応じた個別の支援の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進	カリキュラム・マネジメントの推進 教員の指導力向上	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○学習の系統性・連続性に配慮し、学びのエリア内の研修を通じて、「環境教育・キャリア教育・郷土愛の育成」についてカリキュラム上の連携を通じた9年間を見通した指導ができるようにする。 ○学びのエリア内の児童生徒のID情報等の引き継ぎ、指導上の情報交換を確実にし、生徒の確実な状況把握と理解を深め、個に応じた指導・必要な支援の充実を図る。	○教育課程の各領域・各教科上単元配列表上に学習関連性を明確に示し、各カリキュラムの有効な実践と充実を図る。 ○教職員の課題に応じ、研究推進委員会を中心に校内OJTを推進し教員の自己研修力と指導力の向上を図る。 ○板橋区教科等指導専門官の公開授業に参加し指導力向上に努める。	○タブレットPCの活用により、情報量が豊かになることや、マルチメディアコンテンツの利用が可能になり、よりよい授業展開が期待できる。また、生徒の考える過程が見える。 ○ICTツールの活用による多様な形態の交流学習により、協働的な学びの場の充実を図る。 ○放課後及び長期休業期間中の自習教室の設置と活用により、生徒の居場所を確保し個別の学びの充実を図る。 ○オンライン授業の充実を図り、どのような状況であっても学びを止めることなく教育活動を進めていく。